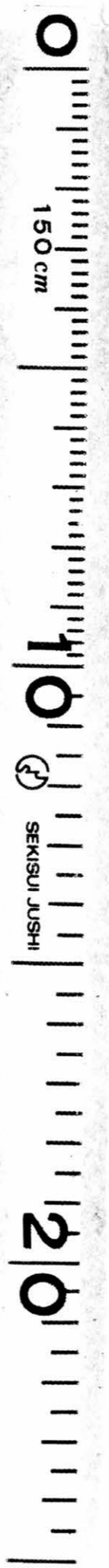
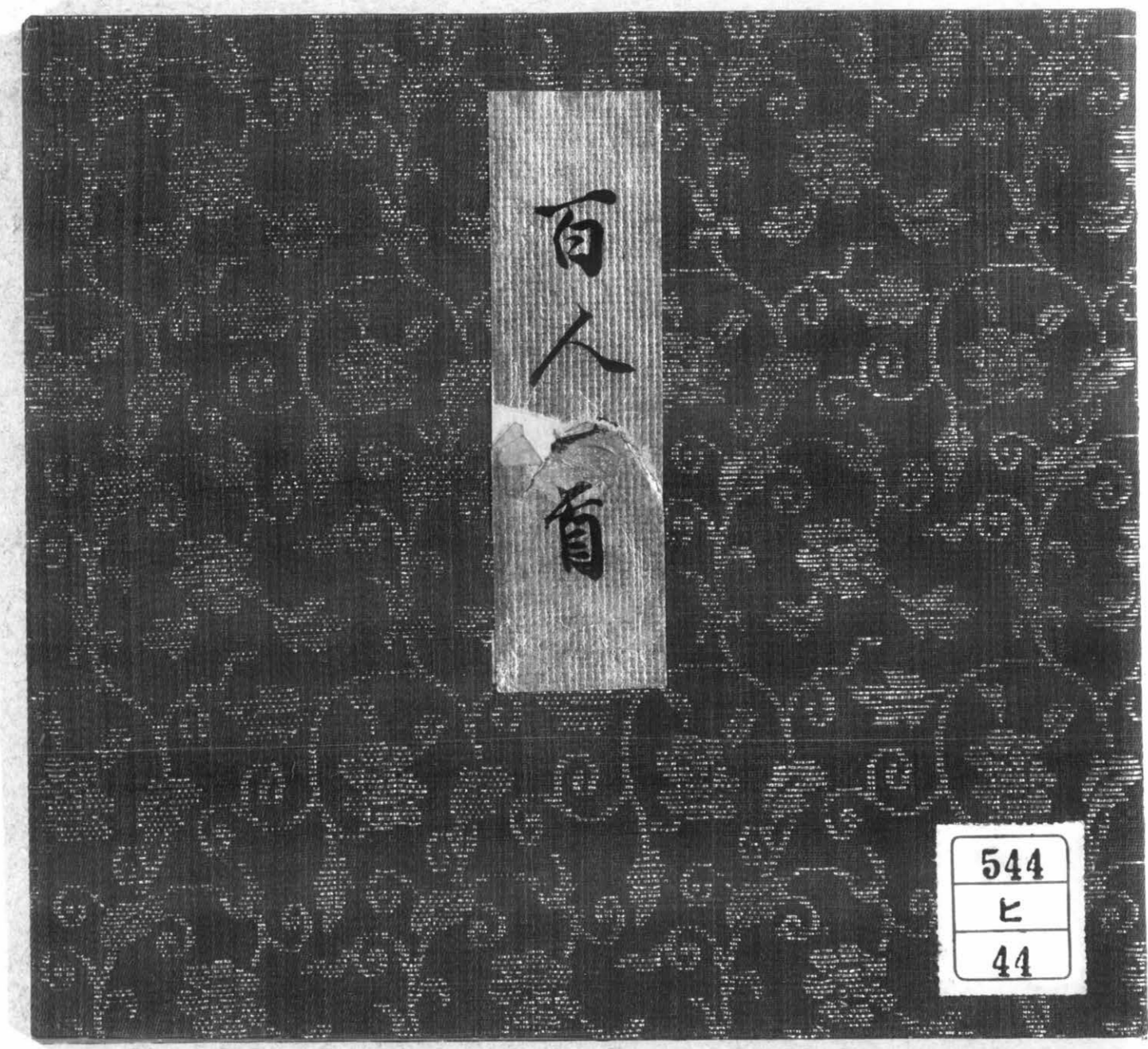


八景拾遺

四人一冊

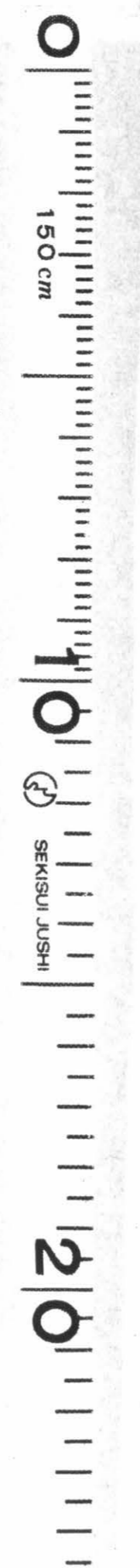
花





百人首

544
ヒ
44



斗唐札

百人一首八宮長外六觀堂



544
ヒ
44

百人一首

天智天皇

秋北田乃りほの房は若とあ
りりるをよみ露よのまきけ

持統天皇

まことと友ふふしし白妙は
と流をけととふま乃多人心

柿本人麿

三川のふき尾のふらふら
まじりてはかきむすむすの神ん

山崎お入

田子浦より出でしは白鳥の
ふりぬるお言ひふりつ

信九さん

ねんじりまふら踏まけなす麻の
ふりぬるお言ひふりつ

中納言家持

おしにれりやう陽よそおれ
ふりぬるお言ひふりつ

母信仲磨

あまれおふらけりてま日好
ふりぬるお言ひふりつ

喜撰法師

お言ひぬるお言ひふりつ

母と字法の子一人ふりり

小野小町

花はさくらけりよさうかひさし
も身よにふらふあやま

標九

ふれふれしむるもつた
しむるもあふあふた

森儀管

和田此余八十為けり書
人よつけよ海人の物

信正遍恒

天津也言れしむら
よめすむらあじ

陽成院

けりぬれ言らむらふれ川
あつむらむらあけ

難波のやまのふりてしるす
あつこいれはとくしよる

元良親王

ついでに今も同じ難波の
身とついでにあつこい

素性法師

とくしよるついでに去月
晨の月とついでに

文彦康秀

明くはれぬあつこい
とくしよるあつこい

人の子

月とついでにあつこい
とくしよるあつこい

菅家

あつこい麻をあらぬ

みづらひのしづかに静かにふく

と原右大臣

あまのこころをいかにたぬらん
かゝるはまのこころをいかに

貞信ら

小倉の峯をりみらるるわが
こころいかにまよふらん

中納言兼捕

かゝるつらさをかゝるる泉
のこころをいかにたぬらん

源宗平朝臣

かゝるはまのこころをいかに
かゝるはまのこころをいかに

元河内新恒

あまのこころをいかにたぬらん
かゝるはまのこころをいかに

春道別

春道の別れはさびしき別れ
あはれさびしき別れ

春道別

月夜も春道の別れはさびしき
別れさびしき別れ

春道別

春道の別れはさびしき別れ

春道の別れはさびしき別れ

春道別

春道の別れはさびしき別れ
春道の別れはさびしき別れ

春道別

春道の別れはさびしき別れ
春道の別れはさびしき別れ

春道別

人...
花うじ...
平泉源義文

平泉源義文
文成朝康

文成朝康
平泉源義文

右記

平泉源義文
平泉源義文

平泉源義文

平泉源義文
平泉源義文

平泉源義文

平泉源義文
平泉源義文

此

中納言

...

...

中納言

...

...

中納言

...

...

中納言

...

...

中納言

...

...

芳林好忠

世の道はまらぬ人らに
いかに忠を盡すべし

由美は脚

八重の宮に
くさくさ秋の風

源重光

風とては
くさくさ秋の風

くさくさ秋の風

年長徳宣

くさくさ秋の風
くさくさ秋の風

芳原義孝

くさくさ秋の風
くさくさ秋の風

藤原實方

あつたよるまの伊吹たのり
ふふふふふふふふふふふ

有京道信羽衣

あつたよるまの伊吹たのり
ふふふふふふふふふふふ

若道入将台総母

あつたよるまの伊吹たのり
ふふふふふふふふふふふ

儀同三日月母

あつたよるまの伊吹たのり
ふふふふふふふふふふふ

大細云々

あつたよるまの伊吹たのり
ふふふふふふふふふふふ

和名改部

あつたよるまの伊吹たのり
ふふふふふふふふふふふ

とらふはかたき

伊勢守

あつたふりてはかたき
あつたふりてはかたき

久武守

あつたふりてはかたき
あつたふりてはかたき

赤松守

あつたふりてはかたき
あつたふりてはかたき

赤松守

あつたふりてはかたき
あつたふりてはかたき

伊勢守

あつたふりてはかたき
あつたふりてはかたき

法抄納言

夜とこのころも此の御代に
女もあつさり此の御代に

尾京大文道雅

とこの思ひ絶えんつらと
人の心も絶えんつらと

松中細言之頼

物り争つらみの川音絶え

何れれつら瀬をわたり木

相換

恨多しはさぬ神のまはり
いよ多らん名よゆけ

大信正行書

りあふと家かまへり
花よりかまへり人

周防内侍

まればのまつりりりりりりり
いひくさんあまう情けま

三修院

いひくさんあまう情けま
いひくさんあまう情けま

能国は卯

嵐くさくさしたるのから
立田の川の錦りりりり

良選は卯

いひくさんあまう情けま
いひくさんあまう情けま

大洲は卯

まればのまつりりりりりりり
あいの九段ま村まううく

祐子内親王家死侍

音も聞たりの溪北あまう情けま

まきの神のちかきまゝに

権中細き運房

まゆの尾よのちかきまゝに

和らめよまゝに

源信賴物長

うらまけり人と初殿れ下風

ふけりまゝに

友原基俊

契五の女に病と命を

められしもの村をわたり

はせきまゝに

おのほしきまゝに

お丹まゝに

崇徳院

お丹まゝに

お丹まゝに

源道昌

清海崎のふもとに鳥居ありて
くまの神をまつ海の神あり

左京大夫頼朝

姑女よなまひくさの地を
もしかり月の帯をけり

待賢門院堀河

ちとん心きうとくまのた

那むけの物とらうがし

後醍醐寺左大臣

かゝる心もつらさうも
うま明れ月うめいれ

道圓法師

心い俺も命しあつ物と
うさよほあめいあかり

皇太子文仁公後成

夢よみららちふけまのひり
ふりたてしき麻うらむる

藤原信輔朝臣

あつくりしつらりあふれん
あつくりしつらりあふれん

後白河院

長とつらりあふれん
國よりつらりあふれん

西行法師

あつくりしつらりあふれん
あつくりしつらりあふれん

兼盛法師

あつくりしつらりあふれん
あつくりしつらりあふれん

皇嘉門院朝臣

あつくりしつらりあふれん

身はしづかにあはれむ

式子日記上

あつたはれまじりてあはれむ
ふりてあはれむ

殿富つ後五福

見せしむるふりてあはれむ
あはれむあはれむ

信京極持政公殿下

まじりてあはれむ

あはれむあはれむ

二條院讃歌

あはれむあはれむ
あはれむあはれむ

鎌倉右大臣

あはれむあはれむ
あはれむあはれむ

泰儀雅正

御台階の心のあさうせふ長流
うきうきとひびくうきうき

お久保正慈田

ねほりなうきもせれぬはゆき
うきうきとひびくうきうき

入道正久大長

ねほりなうきもせれぬはゆき

うきうきとひびくうきうき

権中物之定家

こゝろ人なうきもせれぬはゆき
うきうきとひびくうきうき

後二位家隆

風うきうきとひびくうきうき
うきうきとひびくうきうき

后鳥羽院

今も昔も変わらぬ
あはれなる

順徳院

百城のりき新編九志のり

たけあき

しんが

すゑ

九州大學圖書印

